

高知県納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金と暮らし」

室戸市立羽根中学校 三年

山崎 あゆみ

私達が何気なく使用している教科書。あたりまえのように通る道路や橋。どれも税金によって賄われ、私達が何不自由なく生活できていることを、皆知っているだろうか。

スーパーに行くと百円のお菓子を買おうと、五円の消費税を払わなければならない。友達と買い物に出かけても、家族と食事に行っても、そのほとんどにおいて税金を支払っている。

私の祖母は、着物や洋服を作ったり直したりして、生活している。祖父は漁師をしていて、世界各地を巡っていたが、今はもう高齢のため引退している。畑で野菜を作っているが、売りに出すことはないし、野菜があっても、それだけでは生活できない。昔と違って、今は生活する中で水道代や電気代などを支払う必要がある。年をとると体が不自由になる。となると、病院に行かなければならない。私の祖母は足が悪く、何度も手術を行った。まだ治っていないため、大きな病院に通う必要がある。しかし、祖母の家からは二時間、電車とバスを乗り継いで行かなければならない。二時間となると、お金がたくさんかかってしまう。何よりお金がかかるのが手術だ。祖母は今まで八回もの手術を行ってきたが、八回分の手術代になると、多額の金額になってしまう。しかし、私達が納める税金により負担が減るのだ。私は、日頃買うものの税金のお陰で、高齢者が少しでも助かっているなんて考えもしなかった。普段は税金の話なんてしないし、詳しく学んだことのない私にとって、少しでも手助けできるのかと考えると少し嬉しくなった。

しかし、国民は税金を支払うことに不満はないのだろうか。そもそも物価というものは驚くほど安い。それなのに、何故税金を払う必要があるのか。税金は、私達の生活に使われるため、戻ってきているのだ。学校や病院、公民館。公共の場もすべて私達が払う税金によって便利で過ごしやすい暮らしができていくのだ。

税金の遣われ方として最近気が付いたのは教科書だ。ふと英語の教科書の裏を見てみた。すると、「この教科書は、国民の税金によって無償で支給されます。」と書かれていた。これを見て私は驚いた。私の知らない所で、こんなにも税金が使われているなんて、思いもしなかった。税金を払う必要性が分からなかった私だが、この作文を書いて、日常生活の中で税金がどこで使われているのかを探すようになった。税金というものは、私達の暮らしを支えてくれる、大切な役割りを果たしてくれていることを知った。

しかし、現状として少子高齢社会が進んでいる。この現実の中で、高齢者や生まれてくる子ども達のために、これから大人になっていく私達が、税金を払いながら生きていかなければならないのだ。